

## 【コメント】

### 「オスマンの家産官僚制とティマール体制」 へのコメント

藤井 譲治

京都大学

私は、日本の近世社会、ことに江戸時代の政治史を研究しています。この立場からみますと、ヨーロッパのレーエン制的な封建制と日本の江戸時代の封建制との比較よりも、オスマン帝国における封建制と江戸時代のそれとを比較するほうが、国制や政治組織に多くの類似点があり、より有効な分析ができるように思います。

ただこうした思いは私だけが持つものではありません。戦前から内外の研究者によってオスマン帝国と江戸時代の日本との比較研究がなされてきましたが、残念ながら成功していないというのが現実のように思います。

鈴木さんの報告を聞かせていただいて、オスマン帝国における封建的要素としてのティマール制については、その内実は、土地は国家に帰属するという前提のもと、その権限は与えられた土地への一定の徴税権にすぎず、行政権・司法権はそのなかには含まれないものでとされ、その性格をかなり明確に提示されておられます。オスマン帝国と江戸時代の封建制を比較する場合には、江戸時代の将軍と大名との関係は、大名は将軍から与えられた土地に関して徴税権だけでなく、行政・司法を含めて広範な支配権をもった点で大きく異なるものであるということを押さえておく必要があるかと思えます。

この点を踏まえて、このセッションの課題である官僚制について、まずコメントというよりも質問をさせていただきます。オスマン帝国では、イスラム法官が司法・行政を掌握したことは報告で強調されたところです。この点はそれ自体としては理解しうるのですが、このイスラム法官を頂点とする行政・司法の組織、これは全国的に張りめぐらされているのですが、それがそれぞれの地域においていかなる人々によって担われたのかを含めて、どのようなものであったのか、その内実は報告ではあまり明確にされていないように思います。この点をぜひお教え願いたいと思います。

二つ目の論点は、報告者が、このオスマン帝国における封建的要素と家産官僚的要素という二つのトレンドについて述べられた点に関するものです。報告者は、16世紀末からティマール制が変質し、家産官僚的な要素が拡大していくのだと述べられたように思います。とするならば、報告者は16世紀末以降のオスマン帝国は、もはや封建国家ではないとお考えなのでしょう。それとも本質は封建国家でありそこに家産官僚制的要素が色濃く出てくるという理

解なのでしょうか。お考えを聞かせていただきたいと思います。

最後は、私の関心に引き付けて申しますが、報告では16世紀ころから宮廷奴隷出身の人々の進出がみられること、また小姓層が重用されることを話されましたが、この点は、私自身が考えている江戸時代の官僚制の形成とも関わりまして大変興味を引かれるところです。

江戸幕府では、当初、天下人となったものと、そのもとにその恩寵と信頼とにもとずいて取り立てられた人々、出頭人といいますが、によって行政・司法が担われました。ここで天下人といいい將軍といわないのは、「將軍」という表現が朝廷から政治運営を委任されたものであるという理解にしばしば結びついてしまい、徳川政権が將軍になることによって権力を掌握したのではなく、力、ゲバルトがその正統性を保証していたという現実が等閑にされることを避けるためです。この力による正統性の確保は、決して徳川家康の段階だけでなく、少なくとも四代將軍家綱までは、そうした力を背景とする緊張感が領主階級内部には存在しました。

話を戻しますが、天下人と出頭人による政治運営は、組織的には極めて単純なものであり、その信頼関係を基礎に天下人の意志は容易にさまざまな局面で貫徹しました。しかし、このシステムは、政権の継承という場面にあっては大きな矛盾を抱え、さまざまな軋轢を生じさせます。天下人の交替は、旧来の出頭人の排除と新たな出頭人の創出を迫ります。当然のことながら旧来の出頭人たちはそれまで保持した権限を手放すことに抵抗し、小姓出身者を中核とする新たな出頭人の創出も創業期ほど容易には進みません。このように政権継承のたびに政治的緊張・危機が生じます。江戸幕府において、こうした状況を克服したのが三代將軍家光の時期に整えられた老中制を核とした政治組織です。そこでは將軍のもとに老中がおかれ、その下に行政諸組織が作り上げられ、それぞれの職務が明確化され、従来の出頭人政治にみられた恣意は抑制されることになり、17世紀30年代に、天下人と出頭人という「人」による政治運営から老中制を核とする「職」による政治運営へと大きく転換していきました。

こうした日本近世における政治権力・組織の特徴を踏まえるとき、オスマン帝国における宮廷奴隷出身の人々の進出や小姓層の重用は、オスマン帝国における権力の継承の場面でどのように処理・克服されていったのか、またそれらと家産官僚制の進展とはどのような関係にあったのか、できればその具体的様相をお教えいただきたいと思います。

以上でコメントを終わります。